

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2016年5月12日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

TPPの批准はやめろ！

若者も集会・デモ行進

アベ政権は、選挙公約や国会決議を無視して、TPP協定の承認案を今国会に提出しました。TPPは多国籍企業の利益のために、関税撤廃や規制緩和で、地域経済、食の安全、国民の命と生活すべてを脅かすものです。国会には日付以外は全て黒塗りの資料が出され国民の批判が高まっています。こうした中、道内でもストップTPPの運動が広がっています。

5月8日には、若者が呼びかけて、「ストップTPP」の集会・デモ行進が行われ160人が参加しました。集会では「医療制度が壊される」など反対のスピーチの後、若者を先頭に、子どもつれの親など札幌中心街をデモ行進しました(右写真)。



「がんばってください」の激励も

5月10日には、食糧と農業を守る全北海道連絡会が、JR札幌駅南口で宣伝行動しました(左写真)。通行人にチラシ入りのティッシュを配ると「がんばってください」との激励もたくさん寄せられました。

アベ政権は、国民の世論と運動によって、今国会での批准案の採決を見送りましたが、夏の選挙後には批准しようとしています。TPPの問題点を学び知らせ、選挙の争点にもしましょう。同連絡会では、6月14日(火)18時20分から、大通3丁目で集会後デモ行進を予定しています。

6月18日 北海道医療介護研修集会 (10時～:TKP札幌駅カンファレンスセンター)
記念講演「TPPが医療にどう関わるか(仮)」 講師 寺尾正之さん(保団連)

新・人間裁判

生活保護制度の改善を求めて149人が2次提訴

5月12日、生活保護基準の切り下げ処分の取り消しを求める「新・人間裁判」の2次提訴が行われ記者発表しました。

今回の2次提訴は、2014年4月(2回目)の引き下げに対する提訴で、2013年8月(1回目)の引き下げに対する原告に加えて、新たに7人が原告に加わりました。

記者発表では、渡辺弁護士事務所事務局長から、提訴について説明され、新たに加わった31歳の青年が思いを語りました。

生活保護家庭に育って青年は、現在は一人暮らしで病気のため働くことができません。引き下げ前の生活扶助費は月7万9940円で、2014年4月と比較すると約2千円下がり、2015年4月にはさらに2千円下がりました。「生活保護制度があつてよかったと思ってきました。しかし、生活はギリギリでした。生保基準の引き下げでますます生活は困難になっています。贅沢したいわけではありません。普通の暮らしがしたいです」と訴えました。



新・人間裁判 2次提訴記念 生活保護学習会 5月15日(日) 13時30分～
「保護利用者のくらしの実態 -実態アンケートの分析より-」

講師 木下 武徳 教授(立教大学)(札幌市教育文化会館305研修室)

5月28日(土)は、北海道社保協総会 14時～ かでの2.7 710会議室
記念講演は さっぽろの子ども・若者の今 『さっぽろ 子ども・若者白書』づくりを通して
柳 憲一さん(さっぽろ 子ども・若者白書2016をつくる会 編集局長)